
いつかの、日

北川瑞稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつかの、日

【Nコード】
N6780L

【作者名】
北川瑞稀

【あらすじ】
重ねては、いけない。そう言い聞かせなければ、私は――。
サイトからの再掲載です

「蘭姉ちゃん、行こう」

「ちょっと待ってー。お父さん、行ってくるね」

「おう、早く行け行け」

「行ってきたーす」

いつもの朝。いつもの会話。私の一日は、いつも変わらない。変わってほしくない、と心から願う。お母さんが出ていったように、私の日常から何かがなくなるなんてことはもう起きないでほしい。

お母さんは今でも連絡を取ったり会ったりしてるし、最近お父さんという雰囲気かも？みたいな感じだからいいけれど、新一は違う。電話はしてきてくれるけれど、最近はずっとずっと会ってない。

君はいつも私の傍にいてくれた。だけど今はいない。その代わりと言ってはなんだけど、今私の傍にいるのはコナンくん。

「でね、蘭姉ちゃん…。…蘭姉ちゃん？どうかしたの？」

コナンくんの自分と呼ぶ声に、ようやく気付いた。彼は心配そうな顔で私を覗き込む。

「うつん、なんでもない。ちょっとボーっとしてただけよ」

そう言って、笑ってごまかす。勘のいい彼は、きつと気づいてるだろうけれど。

彼はふう〜ん、と納得したように呟き（でも顔は納得した様子じやなかった）、再び話し始める。

やっぱりコナンと新一は似てるな、と改めて思った。

その心配そうな顔も、笑顔も、私の名前を呼ぶ…感触？みたいなもの。

すべてが、君と重なる。

君とコナンくんの似ているところを見つける度胸が苦しくなる。ただなぜか、他にもっと似ているところがないかと探そうとしてしまう。

…この感情は何なのだろうか。

胸がもやもやして、何かスツキリしない。

「…蘭姉ちゃん、大丈夫？」

いい加減黙ってばかりの私を心配したのか、コナンくんは私の顔の前で手を振る。実際は身長差あって、がとどいていなかったのだけれど。

『おい蘭、大丈夫か？』

ああ、まただ。いつかの日も君に、心配されていた。
心配されてばかりだね、私。しっかりしなきゃ。

「…うん。私は、大丈夫だよ？」

にこつと笑って答える。

コナンくんに答えたのか、私の中の新一に答えたのか、自分でもわからなかった。

重ねちゃだめだ。彼を、見ちゃダメ。そう思っているのに、惹かれてしまうのは……——きっと、疲れているから。
だから……休んだら、きっともう大丈夫。

「さ、行こう。遅れちゃうよ」

そう言って、歩きだした。待ってーとあわてながら、彼は私のあとをついてくる。

その姿も、昔の君とそっくり。

…オメーが大丈夫って言ったときは大体“大丈夫”じゃねえーんだよ…

コナンは心の中でそうぼやく。

そう思っけていても、そんながんばっている彼女が好きなので、止めることはしない。本当にダメかと思ったときは止めるけれど。

二人は、お互いの心中など知りもせず——幼き日の幻影を追いつける。

彼が元の姿に戻って彼女の元に帰ってくるまで。

（後書き）

お久しぶりです。北川瑞稀です。

1か月ぶりくらい？ですかね。いやもつとかな？

連載中の作品については、今ごちゃごちゃと書いててそのうちupするかと思いますので、もうしばらくお待ちください。…って何回言ったっけ？

とりあえず今回は本当だと思いますので！

サイト作りました。多分こっちのほうが更新早いです。よろしければどうぞ。

「Abgesang」（↑音楽用語で“最後の言葉”って意味です）
<http://happinesswish.web.fc2.com/>

（携帯版）<http://happinesswish.web.fc2.com/mobile/index.html>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6780/>

いつかの、日

2011年10月6日08時16分発行